

次期長野市総合計画
(2027年度～2036年度)

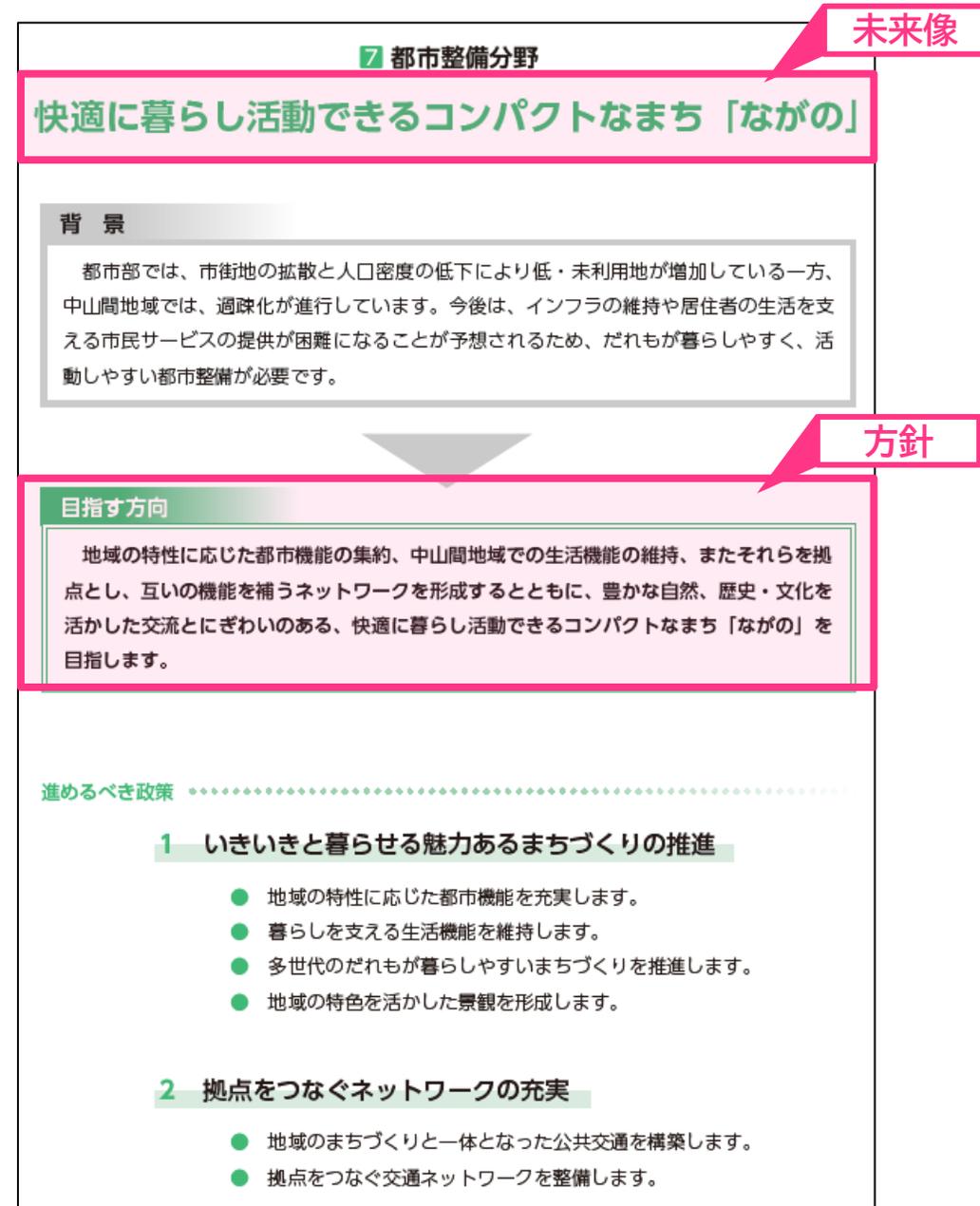
施策の大綱について

令和8年2月
企画課

次期計画全体構成 計画期間：令和9(2027)年度～令和18(2036)年度



(例)第五次長野市総合計画 施策の大綱「都市整備分野」



これまでの審議会、作業部会でいただいた「ひと分野」のご意見・ご提案について4つの視点で整理

1 だれもが安心できる居場所、挑戦できる環境の創出

- ・全ての人が健やかで安心できる、居心地の良い居場所がある。
- ・子どもや若者だけでなく、大人も高齢者も、様々なことを学び、挑戦できる。

キーワード

・全世代、世代を超えた、だれもが、居場所、挑戦

3 市民の主体的な参画

- ・みんながまちのことを「自分ごと」として捉え、まちづくりに参加している。

キーワード

・自分ごと、主体的

2 多様性を理解し、地域に対する愛着や誇りを醸成

- ・多様な主体の違いを理解し、認め合うことで、人と人とのつながりが深まっている。
- ・地域独自の文化を知り、体験できる機会を創り、地域に対する愛着や誇りが生まれている。

キーワード

・多様性、知る、体験する、長野市の独自性、地域性、やさしさ

4 未来の社会の主役を育成

- ・次代を担う子ども・若者に多様な学びや体験の機会が提供されている。
- ・子育て世代を地域全体で支え、未来の豊かな生活環境が維持されている。

キーワード

・子ども、若者、育てる、教育

これまでの審議会、作業部会でいただいた「まち分野」のご意見・ご提案について4つの視点で整理

1

魅力である環境・自然の保全と活用

- ・長野市の魅力の核である自然環境や景観が保全され、豊かな自然とにぎわいが共存している。
- ・自然環境や美しい景観を守り、文化や歴史を含む地域資源を適切に活用することで、地域のアイデンティティが引き継がれている。

キーワード

・自然、環境、景観、地域資源、共存、魅力

3

地域コミュニティ・つながりの強化

- ・地域内の心地よいつながりにより、災害時や日常の困りごとにも対応できる、安全・安心な暮らしを実現している。
- ・多様な主体の支え合いや相互協力が進むことで、共感や協働の輪が広がり、地域に活力が生まれている。

キーワード

・地域コミュニティ、つながり、支え合い、協力、協働

2

安全・安心な生活基盤の確保

- ・地域のつながりと多様性を活かし、都市と中山間地域が両立している。
- ・誰もが安全に暮らすためのインフラやネットワークが整い、市民が居心地よく安心して暮らしている。

キーワード

・安全、安心、居心地、暮らしやすさ、インフラ、ネットワーク

4

市民の主体的な関与

- ・市民一人一人がまちへの愛着や誇りを持ち「自分ごと」として捉え、主体的に行動している。

キーワード

・自分ごと、主体的、愛着、誇り

これまでの審議会、作業部会でいただいた「産業分野」のご意見・ご提案について4つの視点で整理

1 長野市の風土や歴史・文化に誇りを持ち、活かす

- ・地域の風土や歴史・文化に触れることで、想いや愛着が育まれ、次世代に引き継がれている。
- ・地域の特色や魅力を国内外に発信し、長野市に人が集まり、にぎわいが生まれる。

キーワード

・地域の魅力、文化・芸術、継承

3 先進技術の有効活用

- ・先進技術が浸透し、労働生産性が向上することで、人手不足が解消されている。
- ・新しい価値やサービスが創出され、暮らしの利便性が向上する。

キーワード

・先進技術、AI、生産性

2 新たな産業の創出と地域産業のブラッシュアップ

- ・多様な産業が連携し、地域資源を活かした、長野らしい産業が生まれ、成長している。
- ・域外の需要を取り込み、地域で経済が循環し、さらなる投資を促す仕組みが出来上がる。

キーワード

・地域資源、ブランド化、循環、稼ぐ

4 活躍の場の充実

- ・地域の企業の魅力や強みが認識され、活躍の場が提供されることで、多様な人材が集まり、地域の活性化につながる。
- ・文化や芸術、スポーツなどに気軽に触れることができ、活躍の舞台が用意され、誰にもチャンスがある。

キーワード

・若者、担い手、働き方、挑戦

キーワード	意見
居場所 役割	<p>子どもも大人も、高齢者もみんなが、今の自分の居場所を実感できて、未来にも安心感を持てる長野市であつたら良い。だれもが自分の居場所があると思えることで、自分に自信を持って暮らしていけるのではないか。「私はここに、いてもいい」という気持ちの居場所ってという意味での居場所も必要ではないか。</p>
	<p>大切だと感じていることは「開かれている」ということ。 教育が地域に開かれていることで、子どもの居場所が増え、安心感が増していく。</p>
	<p>世代を超えた居場所づくりが重要。大学生活を送る中で、通学と家の往復のみで、地域の方と話をする場も全くないので、それがあつたらよい。</p>
	<p>居場所が必要というのは認識されているが、みんなが主人公になる前になれない現状がある。</p>
	<p>居場所は場所があるだけでは、誰かにとっての居場所にならない。居場所を作っている人が重要である。ここを考えていかないと受け身になってしまうのではないのか。</p>
	<p>発言しても良いと感じることが、居場所や安心につながり、より良い地域になる。</p>
	<p>人にはそれぞれ、職場や地域や家族の役割があるが、自分の立場を忘れてしまい、何かやってくれるってことを期待してしまうため、インフラ整備に傾いてしまう。本当に重要なのは、人に投資することである。</p>

キーワード	意見
全世代 いろんな人 だれもが	<p>全世代の方が安心して住み続けられるやさしいまちが必要だと思う。</p>
	<p>子どもも大人も、高齢者もみんなが、今の自分の居場所を実感できて、未来にも安心感を持って長野市であつたら良い。だれもが自分の居場所があると思えることで、自分に自信を持って暮らしていけるのではないか。(再掲)</p>
	<p>全世代が多様なチャレンジができる環境が重要。また、世代を超えた居場所づくりが重要。子どもと若者を重要視するのではなく、全世代の人にやさしい、そういう施策ができていったらよい。</p>
	<p>いろんな人がまちの中にいられる居場所があるということは、非常に魅力に繋がっていくと改めて感じた。</p>
	<p>発達障害の方々にも、部局の枠を超えて、対応していただきたい。</p>

キーワード	意見
知る 体験する	<p>一方通行だと支援してほしいように感じるが、相手側のことも知ることで、コミュニケーションに繋がる。 知る機会を増やしていけるとよい。</p>
	<p>知識的に知るのではなく、体験的に知ることが大事。教育や、産業、地域のつながりにしても、経験や体験がないとわからない。特に重要なのは、子どもたちが地域を知ること、そして世代間で広がっていくこと。 子どもたちが地域を知ること、長野という町に対する帰属意識が生まれて、一旦外へ出たとしても、長野を思う気持ちが出てくる。</p>
	<p>人間は知らないことが怖い。知るための努力、知ってもらうための努力っていうのが必要で、いろんな人がいるということを知ることが大事である。</p>
	<p>次の世代までつなげていく意識があるから継承していくものであり、「知りたい」という意欲には「誇り」も大事である。</p>
	<p>「知ることから始める」、「知ることを増やす」、「体験が増やせるまち」、「違いを知って力にできる」、「違いを知って未来につながる」といった言葉が皆さんの意見を聞いて出てきた。</p>

キーワード	意見
長野市らしさ	長野は、地域ごと特性も文化も違う。この違いをどうつなげていくかが求められている。
	長野市の独自性、長野らしさをどのように出していくのかが重要で、どういったことに重点的に取り組んでいくのかが見えてくるとよい。(保健所、教育基盤、オリンピック・パラリンピック等)
	地域の運動会だったり、お祭りだったりっていうのが定期的で開催されていて、長野は地域のつながりが非常にあると感じている。
	地域の特色を活かすことは大事である。行政には、人と人をつなげる橋渡しを行っていただきたい。
	長野市には善光寺が見守っている土地という温かみや、回覧板のように人が繋がっていることを実感できる環境がある。そこに誇りを持つことが、長野市にとって良いことではないか。

キーワード	意見
自分ごと	<p>アンケートの中にあるように子育てやっている人の実感は高くても不満がある、それは「自分たちがどうにかするのではなく、誰かが支援してくれればいい」と待っている状態が見え隠れしているのではないかと思った。</p> <p>みんなが主体的に、自分のこととしてまちのことを考えるようになることが、重要である。「みんなが主人公になれる」、「自分たちが主体的になって実現する」という気持ちになるようなスローガンになると良い。</p> <p>市民の皆さんが自分ごととしてとらえることに気づくような、気づけるようなスローガンにできたら良い。</p>
次世代子ども	<p>次の世代が育ってくれないと、自治体そのものが厳しいので、「子育て、教育、女性」といった点が重要になると考える。</p> <p>子どもたちが育っていかないと福祉と医療も安心できない。子どもをまちの宝と思ってほしい。子どもを中心にまちを考えたり、未来を考えたりすることが、結果としてみんな幸せになれる。</p>
やさしい	<p>全世代の方が安心して住み続けられるやさしいまちが必要だと思う。設備が人にやさしいのはもちろん、人が人にやさしいことが必要なのではないかと感じる。やさしいまちで育った若者は進学等で長野を離れても、また帰ってきてくれるのではないかと感じる。</p> <p>全世代の人にやさしい、そういう施策ができていったらよい。(再掲)</p>

キーワード	意見
環境・自然 長野市らしさ	長野市の魅力は環境や自然にある。
	長野市の強みは、誰もが誇れる景観や豊かな自然にある。これを全国にPRしていくべき。
	長野市の強みとして「まちなみ」「文化」「自然」があり、これらを保全しつつ発信するべき。
	長野市のアイデンティティである自然との共生を基軸に。
	文化や自然に魅力を感じている人が多く、長野市の最大の魅力である。
	長野市は全国で唯一無二の都市であり、環境など長野市らしさが大切
	「長野市しかないこと」や「長野市オンリーワン」という考え方は非常に重要。
	環境教育を通じて、市民が積極的に関与することが重要
現状維持	長野市は非常に住みやすく、素晴らしいまちであるため、その良さを維持し、現状を保つことが重要である。
	人口減少下においては、「現状維持自体が挑戦になる」ということが基本的な考え方になっていると感じる。

キーワード	意見
防災・安全	防災対策や意識には課題があり、災害リスクに対応できるまちを目標に、 防災意識の向上や強いネットワークづくりが必要
	災害対策が充実していることは暮らしやすさにつながる。
	安全・安心に暮らせることが根底にあるが、 災害に強いインフラ整備と地域ネットワークの構築は重要
暮らしやすさ 居心地	都会と田舎を掛け合わせた「トカイナカ」という言葉があるが、長野市が持つ 暮らしやすさ や生活の安全性と、都会が持つ魅力が組み合わせられれば、さらによいまちになると考える。
	住んでいる人や訪れる人の 「居心地」 が重要である。「居場所」や「場所」という言葉が多く出ているが、「居心地」というキーワードが適している。
	娯楽施設を求めている人がいる一方で、地域の雰囲気そのものに 心地よさ を感じている人が一定数いるのではないか。
	美しい自然、歴史感じるまちなみ、それらが織り成す豊かな文化が、時を経ても大切に守られてきたからこそ、多くの人にとって 「落ち着き」や「やすらぎ」をもたらす居心地のよい場所 になっている。
	「学べる」「働ける」「育てる」「暮らし続けられる」「子育て支援」 これらは、市民が 快適に暮らし続けるために重要な要素 としてキーワードになってくるのではないか。
環境や自然を保護することは基本だが、同時に エネルギー問題、CO2排出、騒音対策、リサイクル なども都市運営と市民生活の 快適さを保つために重要 である。	

キーワード	意見
コンパクト プラス ネットワーク	人口減少下においては、目的というよりも手段として、まちを拠点にコンパクト化を進めていくこと、既存集落と生活利便施設を公共交通でつなげていくことも重要である。
	都心部では公共交通の利便性も高く「行きたい」「やりたい」と感じられる魅力的な都市整備が進んでいる一方で、長野市ではその点が物足りない。
	中心市街地と中山間地域をそれぞれ特徴あるまちとし、それらをつなげていくという長野市のあり方を示したい。 公共交通の意味での都市部と中山間地域のつながりも重要である。
つながり 地域 コミュニティ	「人と人がつながる」「地域と地域をつなげる」「自然と都市をつなげる」「市民とともに紡ぐ」など、つながりや関係の深さを示すキーワードを盛り込むことができればよい。
	地域における人間関係やコミュニティ活動が盛んである点も強みである。自然・まちなみ・文化といった環境を土台として、そこから地域のつながりや活動が広がっていくイメージが伝わればよい。
	「人とのつながり」が重要だと感じており、特に災害時には人と人のつながりが大きな力になる。
	「みんなつながり、共に作るまち」というキーワードが重要。まちを発展させるために地域のつながりが大事
	自治体内や地域内におけるコミュニティも重要である。地域や人、歴史のつながりを大切にしたい。
	市民が自分たちの地域を守る意識を持つことが、地域活動の活性化につながる。 困った時に相談できる人が身近にいる関係が災害時に役立つ地域のつながりが重要

キーワード	意見
自分ごと 愛着	自分ごととして捉え、地域のことを行政任せにするのではなく、皆で手を取り合って守っていく意識が大事
	行政に依存するのではなく、自分ごととして市民自らが主体となって長野を住みやすいまちにしていくことが大切
	「暮らし」や「生活」といったキーワードを、自分ごととして落とし込んで考える必要がある。
	住民一人一人が自分ごととして未来を拓いていけるようなまちが長野市外の人にとっても魅力的なまちになると考える。
	市民一人一人が行政から言われて行動するのではなく、自分ごととして捉え、幸福を実感できる未来を描くことが重要
	自分ごとにすることは非常に重要であり、いかに関心がない方に関心を持ってもらうかが、今後のキーワードになってくる。
	自分ごととして、市民の意見と行動が変わる土台として、まちを表す表現がよい。
	愛着を持つことが「自分ごと」につながると思うので、「このまちが好きと言えるまち」という表現がよい。
	長野市を「トカイナカ」にすることで、自分の住んでいる土地を愛する気持ちが芽生え、それが自分ごとにつながる。
	人から押し付けられて自分ごとにするのは難しい。「愛着」を持っているからこそ、自然と自分ごととして考えられる。
	若者の中には長野市に愛着や誇りを持っている人が一定数いるが、人口流出が続いているのは、長野市にはない選択肢を求めて市外に出ていってしまう。

キーワード	意見
長野らしさ 地域の強み 魅力	<p>農林業の強みを維持しつつ、観光や商工業と連携して地域の活性化を図るべき。</p>
	<p>自然豊かで文化があふれるまちということが、アンケートの回答でも多い。善光寺、戸隠には信仰、松代には武家文化、鬼無里には原風景。そういったところをブラッシュアップして、国内外に発信できるようなまちづくりが必要。</p>
	<p>飲食店についても素敵なお店が多いけど、全部が知られているわけではない。長野市の雪の景色が特に気に入っていて、善光寺と組み合わせると良い。</p>
	<p>長野市の魅力が伝われば、市内に住み続けたり、Uターンを選択するなど、若者が就職やその先の未来を描ける。</p>
	<p>広辞苑に「門前町」に象徴される都市として長野市が記載されていて、魅力的な特色がある。</p>

キーワード	意見
持続可能 稼ぐ 選ばれるまち	<p>選ばれるまちには、未来を描けるような働く場の提供が必要。</p>
	<p>長野市には素晴らしいアーティストが大勢いる。舞台に立てる機会を増やし、活動が続けられるよう稼げる環境が必要。</p>
	<p>働く場の選択肢を増やすことが若者から選ばれるまちとして重要。</p>
	<p>若者に地域の優良企業がたくさんあることを知ってもらい、地域の企業で活躍して地域に貢献できる循環が必要である。都会に比べて、田舎は時間の流れが違う。若いときは都会で暮らしていても、生活の質を考えると、田舎というのは、長く、安定して生活するのに適していると感じる。 エリアで経済が回るような仕組みを作り、地域が総合的に活性化できるような仕掛が必要。</p>
	<p>若者支援をしている中で、大学で県外に出ていく若者が多いが、育ってきた環境に戻りたいという若者も少なからずいる。戻ってきた若者を受け入れられる産業があれば良いと思っている。</p>

キーワード	意見
文化・芸術	<p>農林業の強みを維持しつつ、観光や商工業と連携して地域の活性化を図るべき。</p>
	<p>長野市には素晴らしいアーティストが大勢いる。</p>
	<p>小中高生のアンケートで、10年後に長野市に残したいものについて、まちなみと文化が圧倒的に多かったということはとても意義深い。子供の頃から、文化芸術に親しむことが重要。アーティストへの支援が盛んであったり、アーティストが身近にいるということが豊かな文化。人口が減少する中で、人がつながるコミュニケーションが重要で、身近なアートがコミュニケーションツールとして使えると良い。</p>
担い手 デジタル化	<p>文化を網羅できるような仕組み・取組を創出できれば良い。重要な要素は、人が集まれて、居続けられること。</p>
	<p>担い手は、農業だけでなく、集落を守るという観点からも非常に重要。</p>
	<p>若者が活躍して地域に貢献できる循環が必要である。 エリアで経済が回るような仕組みを作り、地域が総合的に活性化できるような仕掛が必要。</p> <p>先進のデジタル技術を取り入れることにより、人口減少による人手不足の対応や作業効率や生産性の向上を図る。</p>